

病院を出るのは20時前後が多いのですが、東の空にはオリオン座が見える様になりました。すっかり目の感度が落ちて夜空も真っ暗なのですが、三ツ星は直ぐに気が付きます。

さて、今週末は神奈川県が当番県の関東地区DMAT訓練が企画され、それに合わせて院内の訓練も数年ぶりに行われました。

当院には看護学校が併設されているので、看護学生さんをお願いして数十名の模擬患者さんも参加してくれます。結構、迫真というか、大変な訓練になります。通常の当直と同じ数の先生方に来てもらい、さらに研修医の先生も3名参加してくれました。多くの訓練では小児患者だと「5歳、下腿腫脹（骨折を示唆）」なんていう模擬患者さんなのですが、今年は熱があります、ぐったり、などの内科疾患を考える患者も混ぜてもらいました。実際、大きな地震などでも、家が完全につぶれてしまう、という事態は減って、診てもらえる病院が無い、という場面が多くなると考えられています。

DMAT隊は関東一円から来てくれるので、群馬のチームも来ていました。朝5時出発かな、と思う時間に到着していました。この辺りからスキーに行くことの真逆ですね。

拠点本部訓練が中心で、模擬患者さんが他院から搬送されてきて、ヘリ、飛行機による域外搬送、などのシナリオはちょっと減った様です。DMATの訓練も住宅や災害対応の充実によって変わってきます。私が養成を受けた時は電車の下に潜ったり、下水道見たいなところから重い（60kgくらい）マネキンを搬出したり、なんて訓練もありましたが、先にも書いたように、そういう技能の必要性は幸いに減っています。

トリアージポストは2年目研修医の先生にお願いしました。一時に押し寄せる傷病者を的確に選り分けて適切な診療エリアに振り分けることが求められます。すぐには移動できない場合に待機をしてもらう算段も考える必要があります。災害にならないのが一番ですが、明日は我が身ですから、訓練とは言え、経験することが大切です。万が一の時には役立ちますよ。



今日は寒かったですよね。災害は時を選ばず。
輻射ヒーター買ってまいりましょう。